フェリー等を一時的な宿泊施設として活用するための実証調査（奥尻）

報告書

2024 年 3 月 25 日

北海道運輸局

目次

1. 本実証調査の意義・目的・概要 1

（1）奥尻島の観光課題と理想の観光像 1

（2）実証調査の目的 2

（3）実証調査の概要 3

2. 宿泊利用実現性の検討 5

（1）奥尻島全域で提供可能な収容能力試算 5

（2）奥尻島全体のキャパシティのボトルネックと解決方法 16

（3）奥尻町の各施設にある宿泊に使用可能な備品 17

（4）抽出された課題に対する実現可能な解決方法 17

（5）意見交換会の開催 21

（6）第6期奥尻町発展計画「交流のあるまちづくり」への裨益の検証 24

（7）最終報告会 26

3. 調査結果のまとめ 30

（1）モニターからの評価 30

（2）関係者からの評価 30

（3）今後の方向性 30

（4）今後の継続実施に向けた課題 31

（5）一時的宿泊施設の運営手法の磨き上げ 32

（6）一時的宿泊施設の活用を通じて交流のあるまちづくりの実現を！ 32

1. 本実証調査の意義・目的・概要

(1)奥尻島の観光課題と理想の観光像

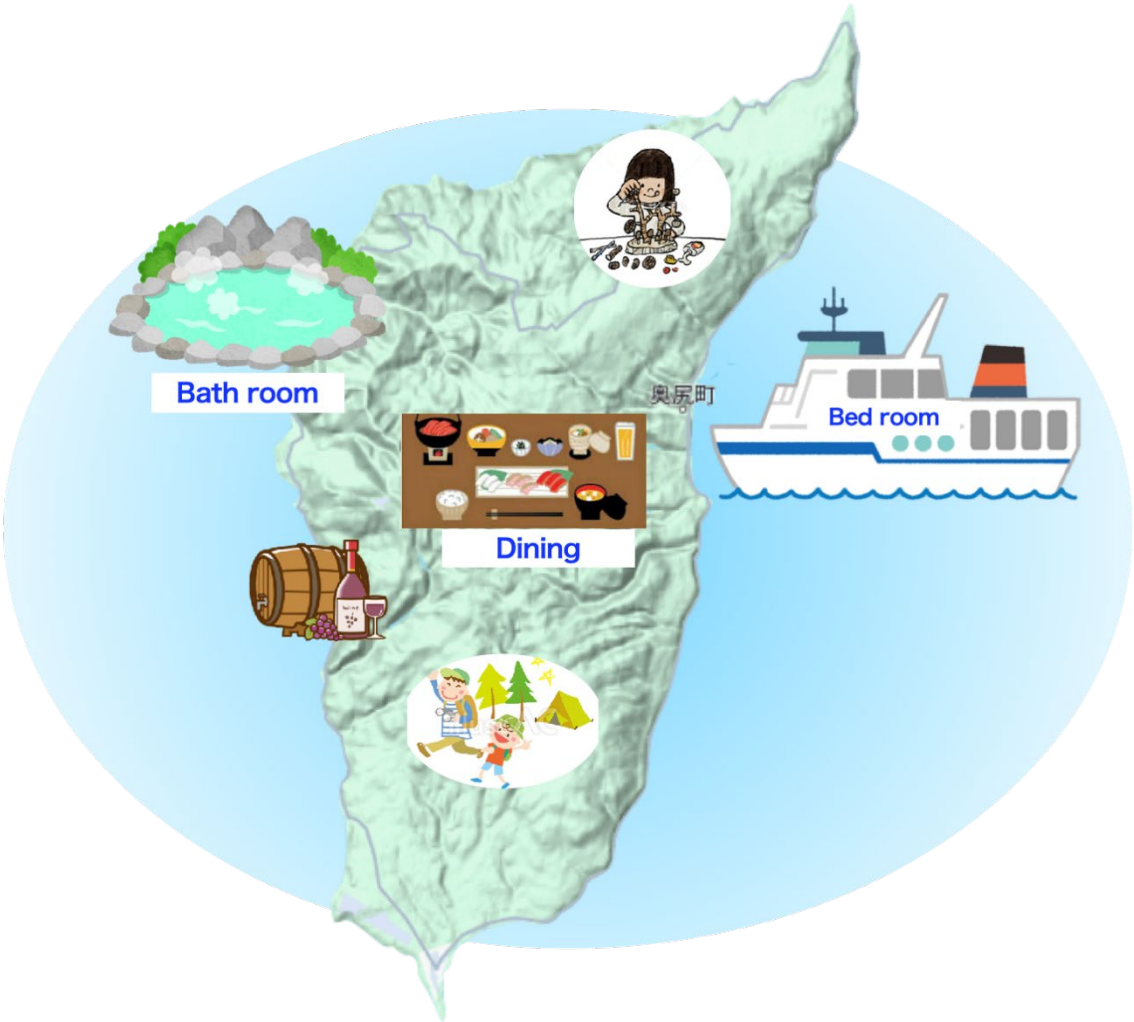
～島全体を宿泊施設に変え、島外の関係人口による支援によるイベント開催が生き残りの道～

奥尻島は、道内の地域の中でも特に人口減少、少子高齢化の影響が大きく、担い手不足から来る地域産業の衰退サイクルに入っている。特に観光産業の中心となる宿泊施設のキャパシティは、2012 年以降 10 年間で 875 人から 433 人にほぼ半減しており、後継者不足から今後廃業する宿泊施設の増加も予想されるところである。

一方で、奥尻島は地域の担い手を島外の関係人口に委ねる仕組みづくりによって、地域の活力を取り戻す可能性を持っている。これまでに 6 回実施されたムーンライトマラソンによって、奥尻島は高度な関係人口(島のファン)づくりの実績を持っている。このネットワークを活用したイベントは、島のファンを拡大再生産する有効な戦略となっていく。

観光シーズン以外のイベント開催によって来訪者を増やすため、島全体を宿泊施設に変えていく方策が奥尻島の目指すべき方向であると考える。

奥尻島の将来イメージ



(2)実証調査の目的

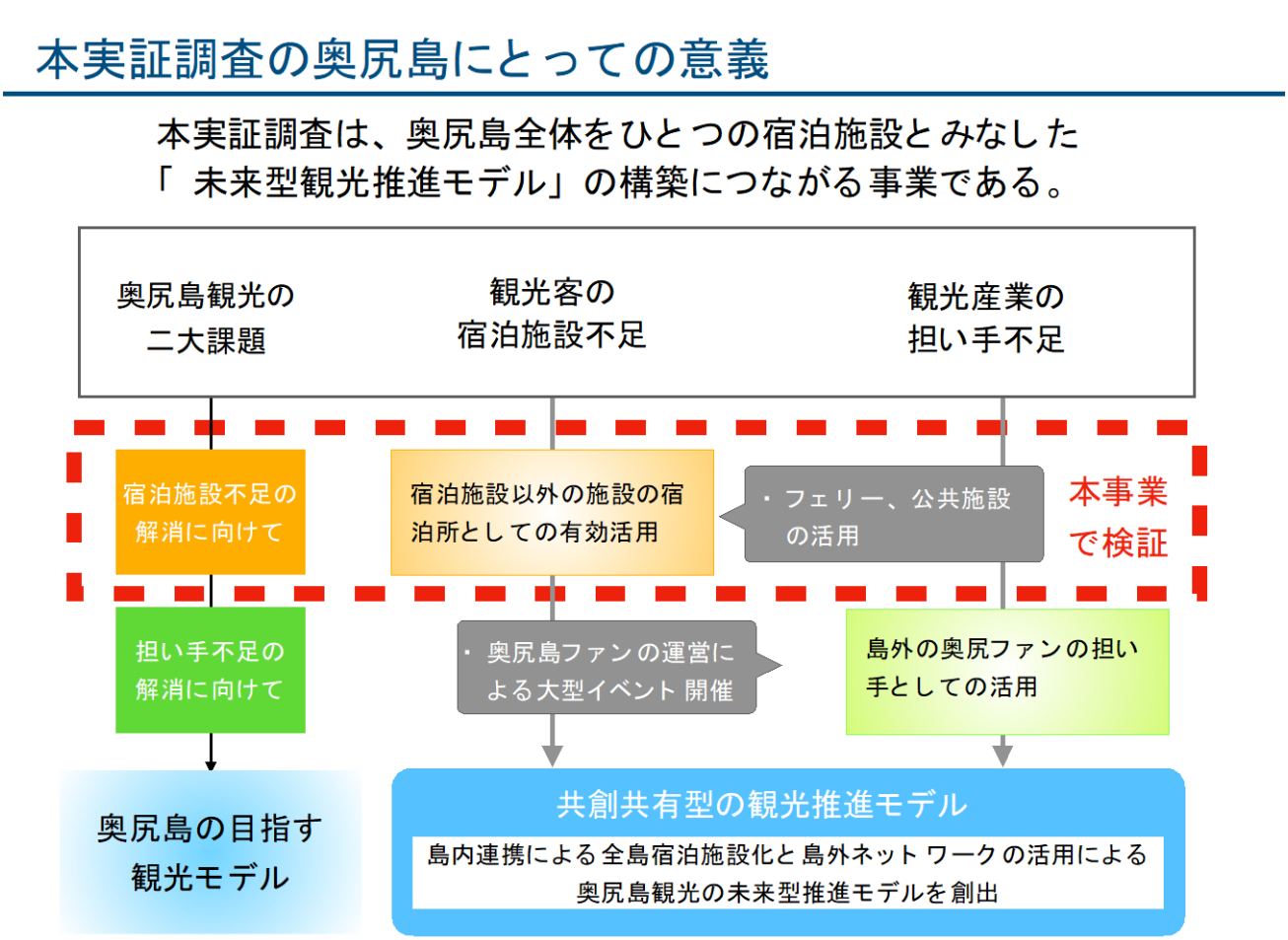
～繁閑差の大きな奥尻島では、一時的に利用可能な宿泊施設が不可欠～

奥尻島が抱える課題のうち、担い手不足問題は島外の関係人口の活用によって補うことができたとしても、もう一つの課題である宿泊不足問題は解消されない。特に 2027 年度まで続く公共工事の影響もあって、宿泊施設は慢性的な不足状態が続いている。

工事完了後は、観光需要に対応可能な客室が増加すると予測されるが、それでも観光需要のピーク時に合わせた客室数は、繁閑差の大きな奥尻島では課題を残すことになる。

本調査では、一時的な観光需要に対応することを想定して、宿泊施設の不足状況を補うため、島に停泊するフェリーや公共施設などを一時的な宿泊所として活用するための検証を行うものである。

奥尻島の課題と本事業の位置づけ



(3)実証調査の概要

調　査　名	フェリー等を一時的な宿泊施設として活用するための実証調査(奥尻)
調 査 目 的	慢性的な宿泊施設不足の課題を抱える奥尻島において、島に停泊するフェリーや公共施設などのリソースを一時的な宿泊所として活用するための検証を行い、実現に向けた課題を整理する。

1)宿泊利用調査

調査実施日	令和５年12月２日(土)・３日(日)			
調 査 方 法	島外在住者(国内在住外国人を含む)30名による宿泊利用調査			
参加モニター	31名　男性18名(内外国人１名)・女性13名(内外国人２名)			38名
同行関係者	７名（北海道運輸局３名、北海道運輸局函館支局４名）			
運営スタッフ	奥尻町産業振興課２名 委託事業者　４名			
調査内容				
アンケート	参加モニター及び関係者を対象に実施38サンプルを回収			
ヒアリング	宿泊場所別にヒアリングを実施(神威脇温泉保養所は２グループに分かれて実施)			
利用宿泊所	ハートランドフェリー(株)カランセ奥尻 神威脇温泉保養所 奥尻町あわび種苗育成センター			
宿泊所の利用		カランセ奥尻	神威脇温泉保養所	奥尻あわび種苗育成センター
	モニター男性	５名	11名	２名
	モニター女性	５名	８名	
	関係者	４名	３名	
	奥尻町役場		１名	１名
	委託事業者	２名	１名	１名
	メディア	２名		
	合　計	18名	24名	４名
宿泊所以外の奥尻島でモニターが利用した施設等				
レンタカー	３社14台を使用(モニター10台、関係者２台、委託事業者２台)			
夕　　食	叶寿司　モニター31名、関係者７名、委託事業者１名　合計39名			
朝　　食	①　叶寿司　20名(モニター) ②　弁当(まつや食堂)　22名(モニター11名、関係者７名、委託事業者４名)			
体験ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	①　離島仙人　深海松(虹色サンゴ)加工体験(モニター10名参加) ②　Gift Pocket　海洋ごみアクセサリーづくり(モニター11名参加)			
観光施設	奥尻ワイナリー見学(モニター25名)			
入浴施設	神威脇温泉			
モニター以外の関係者への調査				
関係者へのヒアリング	モニター調査終了後、12月11日・12日・13日・15日に実施 宿泊所×3、夕食会場×1、朝食提供者×2、入浴施設×1、レンタカー会社×3 見学施設×1、土産店×1、体験ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ提供者×2　合計延べ14施設			

2）宿泊利用実現性の検討

収容能力の計算	アンケート、ヒアリングを参考に奥尻島全域で提供できる施設の適切な収容能力を試算。
備品のリスト化	奥尻町協力のもと各施設にある寝具等の宿泊に使用可能な備品をリスト化する。
課題の解決方法	宿泊利用調査において抽出された課題に対して実現可能な解決方法を具体的に提示する。
今後の方向性の取りまとめ	アンケート、ヒアリング、試算結果、解決方法を基に奥尻町関係者と意見交換会を開催し運営体制を含めた今後の方向性をとりまとめる。
裨益の検証	第 6 期奥尻町発展計画「交流のあるまちづくり」に対して裨益するかを検証し、とりまとめる。

2. 宿泊利用実現性の検討

～収容力と快適性と一人当たりコストの最適値～

宿泊可能な施設の物理的な宿泊キャパシティだけではなく、宿泊者の奥尻島滞在期間中の快適な宿泊環境（就寝スペース、トイレ、入浴、食事提供、安全性、プライバシー等）を提供する上で必要となる、適正な宿泊キャパシティを検証する。

（1）奥尻島全域で提供可能な収容能力試算

～奥尻島において宿泊可能なキャパシティは 499 名～

フェリー・公共施設等の宿泊利用調査結果から、算出された今回の一時的な宿泊所と、既存の宿泊施設のキャパシティの合計は、499 名と算出される。

・一時的宿泊所の最大収容人数：90 名

・既存の民宿・旅館の最大収容人数：409 名

＜本事業における宿泊施設の考え方＞

就寝スペース、トイレ、洗面所、浴室、食事提供場所などで構成され、安全性、プライバシー等の確保を可能とする施設を本事業における宿泊施設として諸条件の検討を行った。

1）宿泊利用調査におけるフェリー・公共施設のキャパシティ

～宿泊利用調査の対象 3 施設において、安全性・快適性・プライバシーを考慮した宿泊キャパシティは 90 名～

・カランセ奥尻＝56 名

・神威脇温泉保養所＝29 名

・奥尻町あわび種苗育成センター＝5 名

○安全性・快適性・プライバシー保護を確保し、収容人数の拡大を可能にするドームテント

一時的宿泊所に快適でプライバシーを確保できる方法としては、ドームテントを用いることが最も適している。

・今回の実証調査では、周りの人の気配や音、室内の照明などが気になるという声が多かった。

・これらの課題の多くはテントを用いることによってかなり緩和される。

・プライバシー保護の面ではほぼ問題なく解決される。

・テントを使用することで、収容人員を増やすことができる。

・一時的宿泊所において使用するテントは、利用者が持ち込むことで運営上の負担を軽減できる。

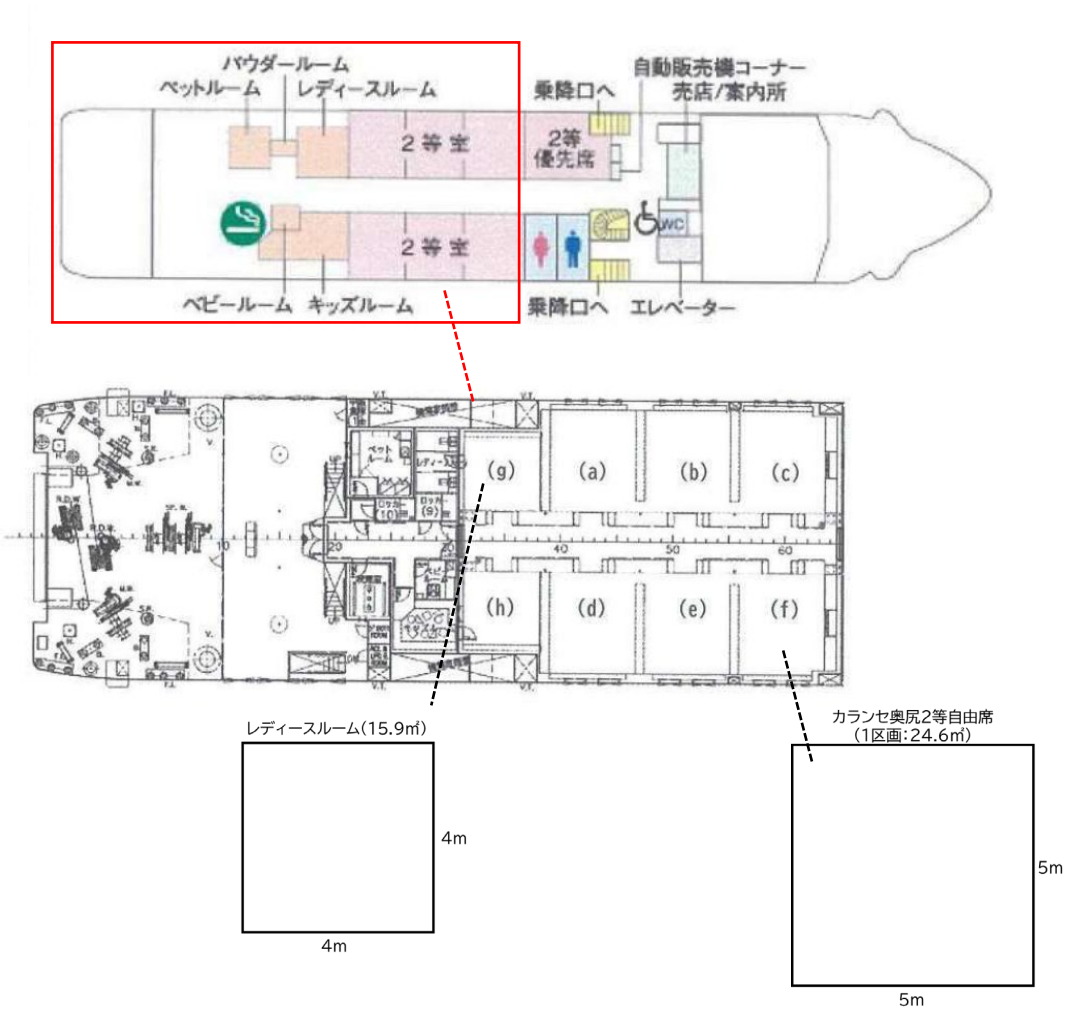
ドームテントは 2.1 メートル×1.0(0.9)メートルの一人用のものと、2.1 メートル×2.1 メートルの二人でも利用可能なものがあるが、ここではカランセ奥尻の 2 等船室の 1 区画(5 メートル四方)に、2.1 メートル×2.1 メートルのテントを使用することを基本ユニットとして考えることとする。

(ア)カランセ奥尻

～安全性・快適性・プライバシーを考慮した最大キャパシティは 56 名～

・2 等船室(広間):8 名×6 区画=48 名

・レディースルーム、ファミリールーム:4 名×2区画=8 名



カランセ奥尻の 2 等自由席の区画はおよそ 5 メートル四方である。これは左右に分かれて乗客が横たわっても、互いの間に 1 メートル強の通路が確保され、快適な空間となるように設計されているものと考えられる。

① 2 等船室(広間 24.6 ㎡×6 区画)

この基本ユニットに、各テント 1 名利用の場合 1 区画のキャパは 4 名。各テント 2 名利用の場合は 8

名となる（下記のバリエーション①の図）。この場合約 80 ㎝の通路幅が確保されることになる。テントを使用しない場合に比べて通路は狭くなるが、快適性とプライバシーを優先したい利用者にとっては最良の方法である。

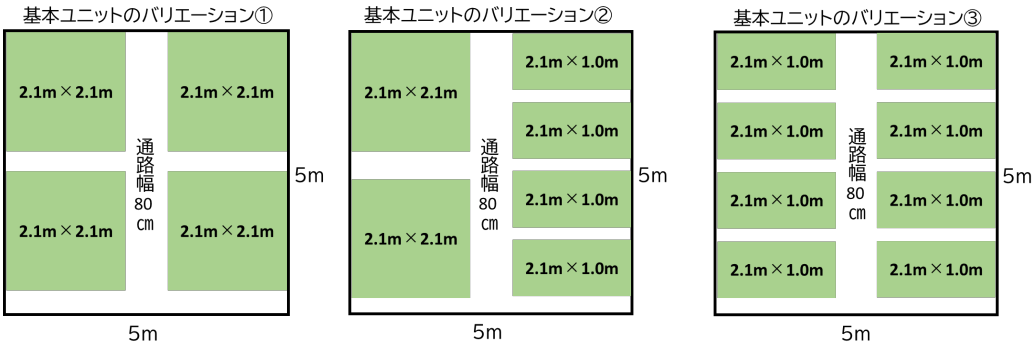
〇基本ユニットのバリエーション

～カランセ奥尻 2 等船室の 1 区画の最大収容人数は各 8 名～

・二人用テント×4（収容人員 4 名～8 名）

・二人用テント×2、一人用テント×4（6 名～8 名）

・一人用テント×8（収容人員 8 名）



② レディースルーム・ファミリールーム（15.9 ㎡×2 区画）

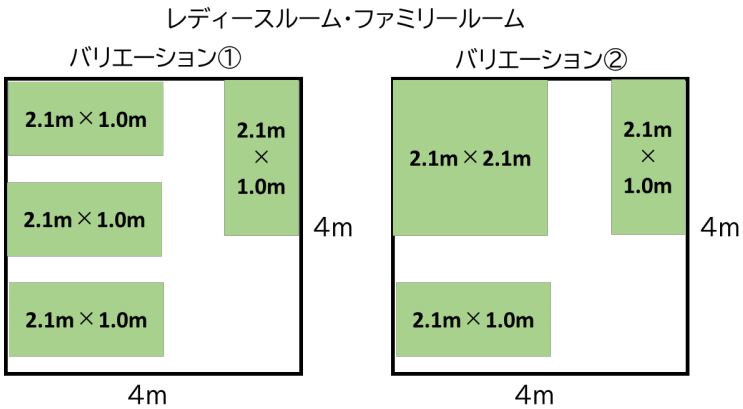
カランセ奥尻のレディースルーム及びファミリールームは、およそ 4 メートル四方である。

〇レディースルーム及びファミリールームのバリエーション

～カランセ奥尻レディースルーム及びファミリールーの最大収容人数は各 4 名～

・一人用テント×4（収容人員 4 名）

・二人用テント×1、一人用テント×2（3 名～4 名）



③ 一人当たり面積の適合性

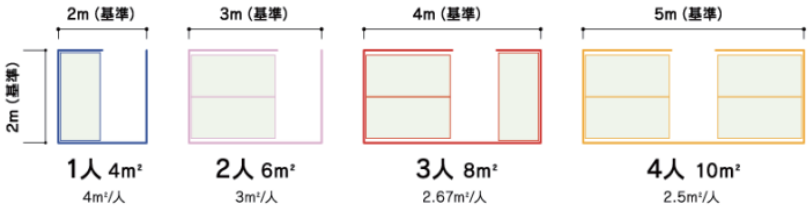
～最大収容人数で利用の場合も快適性は保たれる～

・2 等船室（広間）に 8 名宿泊の場合：一人当たり約 3.1 ㎡

・レディースルーム（ファミリールーム）に 4 名宿泊の場合：一人あたり3．9㎡

東京都建築士事務所協会の「避難所モデルプラン」による居住スペースは、一人の場合と 2～4 人家族の場合で異なるが、一般個人一人当たりの居住スペースは 2.5 ㎡～4.0 ㎡となっている（下図）。

上記③で算出したカランセ奥尻の最大収容人数による一人当たり平均面積は 3.1 ㎡から 3.9 ㎡の間である。ドームテントの面積は一人用の場合 2.1 ㎡であるが、避難所のように段ボール等で区切られた空間とは異なり、睡眠中一人がテントで覆われることから、安全性や快適性の面で避難所のモデルを上回るものと考えられる。



出典：「避難所モデルプラン」（東京都建築士事務所協会）

フェリー内での最大宿泊可能人数は、実際には正確な図面を提出して申請手続きを行い、検査を受ける必要があるが、検査のための時間や費用を要するため今回の実証調査では最大宿泊可能人数は算出していない。北海道運輸局内で大まかに算出したところ 2 等船室内では最大 120 名までは、法的な基準を満たすものとして問題のない範囲ということであった。したがって、ここで掲げた 56 名の宿泊キャパシティは、可能な範囲と捉えることができる。

④ 一人当たりコストによる適合性

～最大収容人数で利用の場合、一人あたりコストは 8,900 円～

今回のモニター調査のために、ハートランドフェリーに発生した費用は、人件費と燃油代で約50 万円と算出された。（燃油代等人件費以外の費目については概算）

（船内人件費 10 万円、地上要員人件費 3 万円、燃油代 20 万円、
水道・電気・汚水処理・清掃薬品等 17 万円）

前述の客室のキャパシティから、一人当たりのコストは以下のように算出される。

・モニター調査時同様 18 名で利用の場合：約 27,700 円/人
・2等船室最大キャパ＝56 名で利用の場合：約 8, 900円/人
※上記のコストについては、イベント実施の予算に組み込んで支出されることを想定

⑤ カランセ奥尻を一時的宿泊施設として利用する上での課題

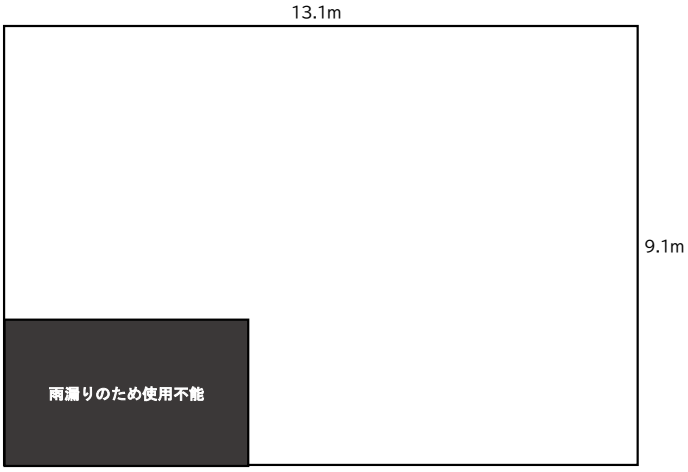
～最大の課題は洗面所、着替え場所～
・最大キャパシティを支えるだけの設備がない（特に洗面所、着替えの場所）
・コンセントが不足する
・貴重品ロッカーがない
・他の人の騒音（いびきなど）
・町内で保有する寝袋では数量不足

（イ）神威脇温泉保養所

神威脇温泉保養所の大広間は約 119.2 ㎡あるが、一部雨漏りのため使用不可能な個所がある。実際に使用可能な部分の面積は 104.2 ㎡となっている。

神威脇温泉保養所大広間の面積

区分	面積	備考
大広間	119.2㎡	9.1m×13.1m
内使用不可部分（雨漏りのため）	15.0㎡	3.0m×5.0m
使用可能部分	104.2㎡	



① 広間（104.2 ㎡）の宿泊キャパシティ

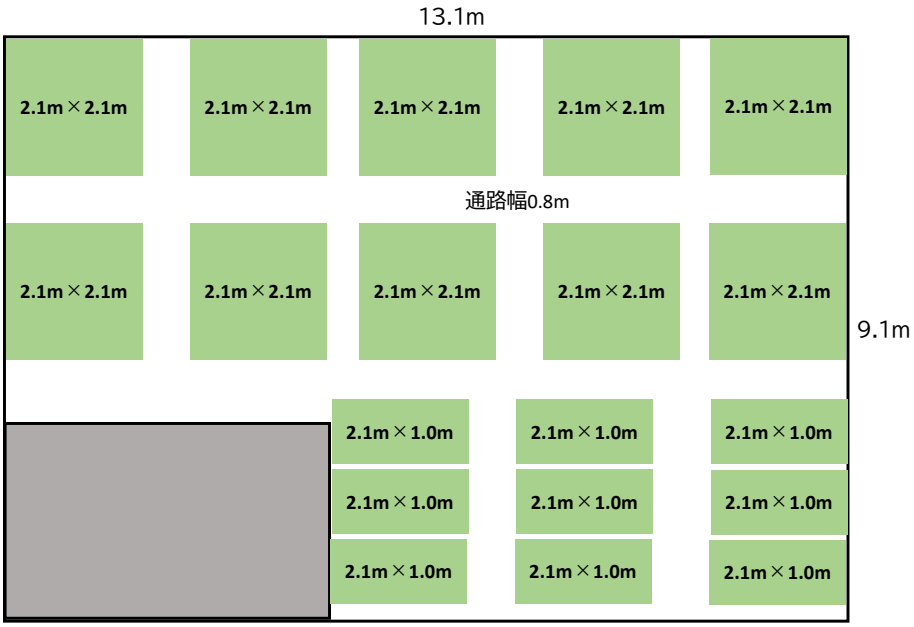
～神威脇温泉保養所大広間の最大収容人数は 29 名～

使用可能な 104.2 ㎡を有効に活用するため、5 メートル四方の基本ユニットを配置し、残りの空間に一人用のドームテントを配置する。

これによる神威脇温泉保養所の宿泊キャパシティは以下のように算出される。

・二人用テント×10（収容人員 10～20 名）

・一人用テント×9（収容人員9名）



② 一人当たりコストによる適合性

～最大収容人数で利用の場合、一人あたりコストは 2,069 円～

今回のモニター調査のために、施設に発生した費用は人件費だけで 42,500 円であった。光熱費を含め仮に 60,000 円の費用がかかるとすると、前述の客室のキャパシティから、一人当たりのコストは以下のように算出される。

・全てのテントを一人利用した場合　利用人数 19 名：3, 157円/人

・最大のキャパシティで利用した場合　利用人数 29 名：2,069 円/人

※上記のコストについては、イベント実施の予算に組み込んで支出されることを想定

③ 神威脇温泉保養所を一時的宿泊施設として利用する上での課題

・最大キャパシティを支えるだけの設備がない（特に洗面所）
・コンセントが不足する
・貴重品ロッカーがない
・他の人の騒音（いびきなど）
・活用する上での消防の許可
・町内で保有する寝袋では数量不足

（ウ）奥尻町あわび種苗育成センター休憩室（13 ㎡）

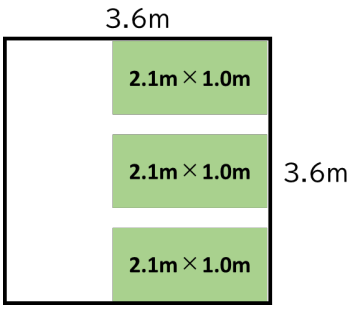
① 休憩室（13 ㎡）の宿泊キャパシティ

～奥尻町あわび種苗育成センター休憩室の最大収容人数は 5 名～

奥尻町あわび種苗育成センターの休憩室は 8 畳（約 13 ㎡）である。一人用のテントを持ち込んだ場合、宿泊可能な人数は最大3名であるが、この施設は1部屋のみであるため、家族での利用が望ましい。

家族の場合であれば、寝袋のみの利用で、5名程度で利用することも可能である。

（5名での利用の場合一人当たり面積：2.6 ㎡）



② 休憩室を一時的宿泊施設として利用する上での課題

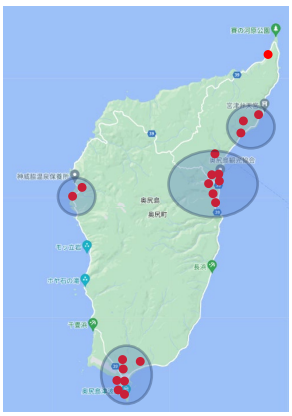
・8 畳一間の休憩室のみの利用となるため、利用対象が家族などに制限される
・町の職員により運営されている施設のため、宿泊のための運用コストは算出できない

以上の計算結果により、一時的宿泊所の最大収容人数は 90 名と算出される。

2）既存の宿泊施設のキャパシティ

～奥尻島内の民宿・旅館の最大収容人数は 20 施設合計 409 名～

・2 食提供する民宿は 13 施設、最大収容人数 260 名
・朝食のみ提供する民宿は 2 施設、最大収容人数 50 名
・素泊まりの民宿は 5 施設、最大収容人数 99 名



宿泊施設（民宿）

地区	施設名	室数	収容人員	備考
稲穂	民宿いなほ	8室	15人	
宮津	旅の宿大須田	10室	25人	
	御宿きくち	7室	23人	
	民宿木村さん家（ち）	7室	18人	
奥尻	トラベルハウス想い出	15室	26人	
	浜旅館	8室	16人	
	川尻旅館	12室	16人	
	民宿おぐろ	9室	15人	
	民宿小林	8室	10人	朝食のみ提供
	民宿清運丸	10室	30人	素泊まりのみ
	民宿いしおか	7室	16人	
富里	民宿朝日	9室	25人	
青苗	素泊民宿 島じかん	6室	15人	素泊まりのみ
	旅館青葉荘	8室	30人	素泊まりのみ
	民宿夕凪	14室	40人	朝食のみ提供
	ペンションこやま	4室	9人	素泊まりのみ
米岡	岡本旅館	13室	35人	
	民宿土井	8室	20人	
神威脇	民宿かさい	10室	10人	
	奥尻ｹﾞｽﾄﾊｳｽimacoco	5室	15人	素泊まりのみ

・2食提供	123室	260人
・朝食のみ提供	22室	50人
・素泊まり	33室	99人
合計	178室	409人

3）一時的宿泊所となりうる潜在的な施設（公民館等）

～一時的宿泊所となりうる潜在的な施設のキャパシティは　368 名～

町民センターなどの大規模の施設を除き、各地区にある自治振興会館等を一時的宿泊場所として利用可能であると想定して、今回の実証調査で使用した施設以外の宿泊キャパシティを算出した。

これらの施設は、通常宿泊場所としては使用されていない施設であるため、消防法等の基準を満たす必要があるが、今回の調査における宿泊キャパシティの算出のため、諸条件をクリアしているという前提で計算を行っている。

算出方法は以下の通りである。

①建物の総面積の 30%が宿泊場所として利用可能と想定し、宿泊使用想定面積を算出

②宿泊使用想定面積を 25 ㎡で割り、収容可能な 5m×5m の基本ユニットの数を算出

③基本ユニット一つ当りに 8 名宿泊可能として、想定宿泊キャパシティを算出

施設名	所在地	面積（㎡）	宿泊使用想定面積（㎡）	想定宿泊キャパシティ
新生ホール青苗	青苗	1,026	307	96 名
神威脇生活改善センター	湯ノ浜	192	57	16 名
奥尻町総合研修センター	青苗	754	226	72 名
谷地生活館	奥尻	198	59	16 名
宮津生活館	宮津	200	60	16 名
薬師集会所	松江	84	25	8 名
稲穂自治振興会館	稲穂	204	61	16 名
赤石自治振興会館	赤石	209	62	16 名
球浦自治振興会館	球浦	235	70	16 名
勘太浜自治振興会館	稲穂	183	54	16 名
東風泊自治振興会館	球浦	225	67	16 名
稲穂夕なぎ会館	稲	295	88	24 名
米岡自治振興会館	米岡	186	55	16 名
初松前自治振興会館	松江	280	84	24 名
			合計	368 名

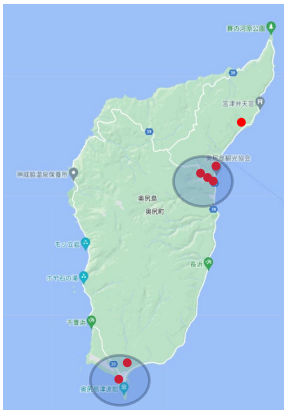
4）移動、入浴、食事など、奥尻島滞在に必要となるインフラの調査と課題の整理

（ア）食事サービス施設

① 飲食施設（夕食）

～奥尻島内の夕食の最大提供可能人数は 7 施設合計 192 名～

奥尻島で夕方・夜間営業している飲食店は全部で 7 か所（仕事関係者専用施設を除く）。
奥尻地区と青苗地区に集中している。



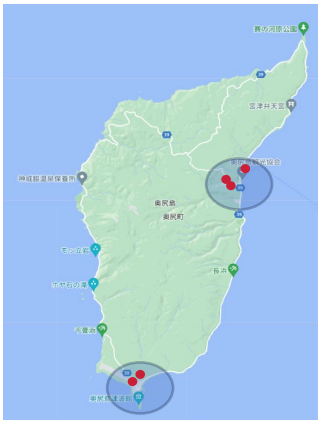
夕食会場

地区	施設名	座席数
奥尻地区	叶寿司	66人
	居酒屋寿	20人
	Bella vista	16人
	実乃花	8人
	双葉寿司	7人
青苗地区	食堂潮騒	35人
	波止場	40人
		192人

② 飲食施設（朝食）

～奥尻島内の朝食の最大提供可能人数は 5 施設合計 390 名～

奥尻島で朝食を提供可能な店舗は全部で 5 か所ある。
奥尻地区と青苗地区にのみ見られる。



朝食（弁当）提供事業者

地区	施設名	提供可能数
奥尻地区	まつや食堂	60人
	叶寿司	200人
	Bella vista	40人
	ひまわり弁当	50人
	セイコーマート奥尻店	40人
		390人

③ 食事サービス施設の課題

・昼食場所が不足

昼食場所は恒常的に不足気味であり、一時的宿泊所利用を含めた最大規模の 499 名が島内に宿泊した場合、食事サービスの中でも不足する可能性は昼食場所が最も大きい。

・夕食会場が不足

夕食を提供していない民宿や素泊まりの宿泊施設も多くあるため、最大規模の 499 名が島内に宿泊した場合、夕食を提供する宿泊施設の収容人員 260 名を差し引いた 239 名分の夕食が必要になる。夕食提供のキャパシティは現状 192 名分であることから、47 名分の夕食場所が不足する。（朝食の必要人数は 189 名分であるため、現状の提供事業者で充足することが可能である）

（イ）入浴サービス施設

① 入浴サービス施設

～奥尻島内の入浴施設は神威脇温泉のみ～

奥尻島には優れた泉質の神威脇温泉がある。夜 8 時まで利用可能であるため、一時的宿泊所の利用者も十分利用可能である。

② 入浴サービス施設の課題

・キャパシティ不足

一時的宿泊所に最大収容人員の 90 名が宿泊した場合、時間が重なった場合には利用できない状況も考えられる。

・距離が遠く利用しにくい

特にカランセ奥尻が停泊する奥尻地区から離れているため、夕食時間やフェリーの門限などの関係上、利用しにくい面がある。

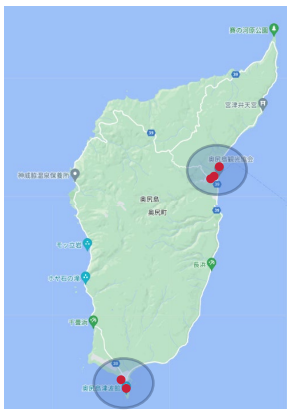
（ウ）移動サービス施設

～奥尻島内のレンタカーやハイヤー、公共交通機関だけでは最大宿泊客数を支えられない～

① レンタカー

～奥尻島内のレンタカーによる移動の最大キャパは 142 名～

島内に 6 事業者があり 32 台を所有。最大可能人数は 142 名である。



レンタカー台数

地区	施設名	軽自動車	ミニバン・ワゴン	合計
奥尻地区	奥尻レンタカー	6台	3台	9台
	奥尻かもめトラベルレンタカー	4台	1台	5台
	ホンダレンタカー小林	1台		1台
	うにまるレンタカー	3台		3台 ※夏場は5台
青苗地区	奥尻空港レンタカー	9台	3台	12台
	青苗ハイヤーレンタカー事業部	2台		2台
		25台	7台	32台

レンタカー乗車可能人員

地区	乗車定員	軽自動車 4人	ミニバン・ワゴン 6人	合計
奥尻地区	奥尻レンタカー	24人	18人	42人
	奥尻かもめトラベルレンタカー	16人	6人	22人
	ホンダレンタカー小林	4人	0人	4人
	うにまるレンタカー	12人	0人	12人
青苗地区	奥尻空港レンタカー	36人	18人	54人
	青苗ハイヤーレンタカー事業部	8人	0人	8人
		100人	42人	142人

② 公共交通（バス）

～バスは通学や住民の移動のための利用が中心～

奥尻島内のバス運行は、北部方面と南部方面の2路線があり、原則通年運行する路線バスと学校通学の時間帯に設定しているスクール便があり、島の交通機関として利用されている。

◆保有台数：6 台

◆平日　1 日 9 便、土日・祝日・学校休日は 1 日 8 便

・南回り（奥尻十字街―神威脇）　1 日 5 便　所要時間 60 分

・北回り（奥尻十字街―稲穂野名前）　1 日 4 便　所要時間 25 分

③ 移動サービスの課題

～移動手段の圧倒的不足～

・レンタカーに乗車可能な最大人数は 142 人であるため、500 人規模のイベントに対する供給台数としては全く不足する状況にある。

・定員 40 名ほどの路線バスも1日 4～5 便ほどの運行であるため、これを利用した移動にも限界がある。

（2）奥尻島全体のキャパシティのボトルネックと解決方法

～最大キャパシティの宿泊を想定した場合、朝食以外の食事、入浴、移動手段が不足する～

今回使用した 3 つの一時的宿泊所と既存の民宿をフル活用して 499 名参加のイベントを実施することを想定した場合、別のインフラの問題が発生する。

夕食については、素泊まりや朝食のみ提供の施設もあることから、239 人分が必要であるが、提供可能な人数は 192 人分であり、全員が同じ時間に食事をとることは困難である。昼食については 499 人分が必要であるが、昼食を取れる場所は夕食よりも少なく全員が食堂やレストランでの食事は困難である。また、レンタカーのみでは 142 人の利用が最大であり、移動手段が圧倒的に不足する。

解決方法として、夕食については時間を分けて取るようにすることが必要である。昼食については、朝食と同じく弁当での対応が必要となる。入浴については、神威脇温泉保養所 1 か所の使用の場合 3 回転させる必要があり、イベント参加者相互の理解のもとに入浴時間制限を行う必要がでてくる。

また、移動手段については過去に行われたマラソンの時と同じく、島外からバスを持ち込むことが不可欠の条件となってくる。

○民宿と実証調査で使用した一時的宿泊施設の最大キャパを受け入れる場合の必要数と提供可能数

カテゴリ	施設数	提供可能数	必要人数	充足度	備考
夕食	7 施設	192 人	239 人分	▲	夕食会場として利用
朝食	5 施設	390 人	189 人分	○	弁当で提供
入浴	1 施設	30 人	90 人分	×	同時に男女各 15 人
レンタカー	6 施設 32 台	142 人	499 人分	×	

＜上記必要数の計算根拠＞

（前提） 宿泊総人数 499 人

・民宿での夕食提供＝260人分　必要人数（民宿で夕食を取れない人数）＝239 人

・民宿での朝食提供＝310 人分　必要人数（民宿で朝食を取れない人数）＝189 人

・民宿での宿泊人数＝409 人　入浴施設の必要人数（民宿以外の宿泊者）＝90 人

・レンタカー必要人数＝島内宿泊者全員＝499 人

（3）奥尻町の各施設にある宿泊に使用可能な備品

1）一時的な宿泊に使用可能な備品

奥尻町内にある備品で、一時的な宿泊所に使用可能なものは以下の通りである。

ア）一時的な宿泊所に使用可能な奥尻町内の備品

備品	数量	備考	管理者
寝袋	30 個	レンタル用に町が所有	奥尻町産業振興課
アルミレジャーマット	30 個	100 ㎝×200 ㎝	奥尻町産業振興課
パーティション	10 組	1.8m×2.7m（三つ折り）	奥尻町教育委員会

イ）一時的な宿泊所に必要となるその他の備品（数量は最大収容人員宿泊の場合）

備品	数量	備考
電源延長コード	26 個	3m 程度の長さのもの
枕	34 個	空気枕など（カランセ奥尻は船内の備品を使用）
寝袋	60 個	
ドームテント	49～74 個	一人用と二人用が必要

2）備品の課題

・量的不足

一時的宿泊所の最大収容人数 90 名の規模と比較して、町が保管する寝袋等の備品の量は十分とはいえない。

・転用の難しさ

上記の備品以外に、現在避難所になっている青苗支所には、毛布、マット、まくらなどの避難セットが 40 名分ほどあり、町民センターで保管している。しかしながら、これらの備品は、あくまで災害時の避難用として保管されているため、他の用途では使用できない。

（4）抽出された課題に対する実現可能な解決方法

～施設提供者による課題解決と宿泊者による課題解消～

ピーク時に合わせてすべてのキャパシティを拡大できない状況では、タイムシェアや利用者が使用備品を持参する「共創・共有」の発想が不可欠である。

1）カテゴリ別の課題と解決方法

（ア）一時的な宿泊所

課題	解決方法
・設備不足（洗面所、着替えの場所など）	⇒フェリーにおいてはターミナルのトイレ等を使用 ⇒保養所では、トイレ、浴室などの利用により不足を緩和する
・安全性及びプライバシーの確保	⇒ドームテントを使用することにより解決される
・コンセントが不足	⇒テーブルタップ等の備品拡充

	⇒利用時間のタイムシェアなどの工夫
・貴重品ロッカーがない	⇒イベント主催者に管理を委ねる
・騒音（いびきなど）	⇒耳栓の販売（あるいは持参の推奨）
・消防の許可	⇒イベント民泊適用の可能性を模索

（イ）食事サービス

課題	解決方法
・昼食場所が不足	⇒イベント時には事前に交渉し提供場所を確保 ⇒昼食時間のタイムシェア
・夕食場所の不足	⇒居酒屋やスナックの活用（料理提供の事前交渉） ⇒夕食時間のタイムシェア

（ウ）入浴施設

課題	解決方法
・キャパシティ不足（神威脇温泉）	⇒入浴時間のタイムシェア ⇒町内の民宿に風呂の提供依頼 ⇒廃業した民宿の風呂の活用
・宿泊施設からの距離の遠さ	⇒町内の民宿に風呂の提供依頼 ⇒廃業した民宿の風呂の活用

（エ）移動サービス

課題	解決方法
・移動手段の圧倒的不足	⇒国家戦略特区の適用によるライドシェア導入検討 ⇒島外からの観光バス導入 （ムーンライトマラソンの時はバス５台を島外から持ち込んでいる）

（オ）宿泊に使用可能な備品

課題	解決方法
・寝袋などの備品の量的不足	⇒イベント参加者に寝袋持参を推奨
・避難所の備品の転用の難しさ	⇒イベント参加者に寝袋、テントなどの持参を推奨

２）イベント参加者の心理的側面からの課題の解消

～イベント参加の目的が大きいほど、課題は小さくなる～

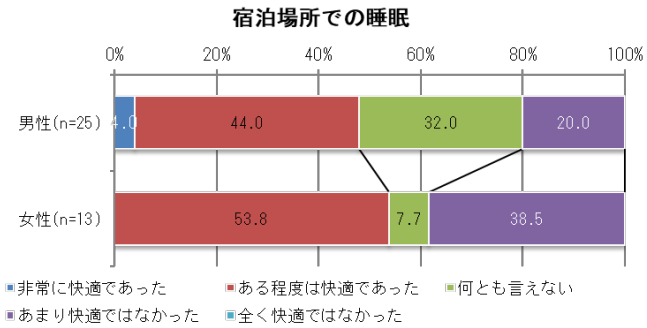
今回のモニター調査事業でのアンケート結果においても、一時的な宿泊施設を利用する際の課題については、共創共有の考えに基づくことで概ね解消されることがわかった。

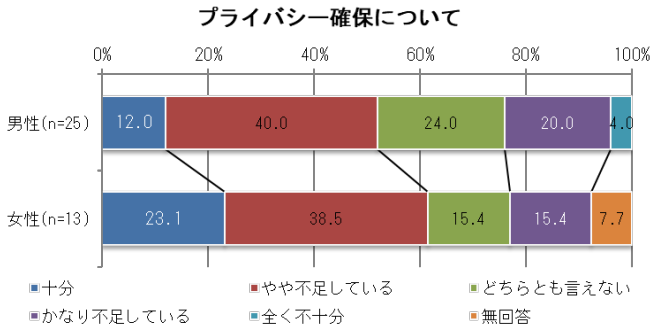
宿泊場所としての大きな課題である「睡眠の質の確保」と「プライバシー確保」について、モニターアンケート結果を属性別に比較してみた。

（ア）男女別特性の違い

～プライバシー意識は性別よりも個人的な性向によるとみられる～

男女別では、女性の方が「ある程度快適」と「あまり快適ではなかった」に二極化しており、いずれの回答割合も男性より多い。また、プライバシー確保については、女性の方が「十分」と答えた割合が大きく、男性では「かなり不足している」と回答した者が多いことから、必ずしも女性の方がプライバシーに関して課題意識が大きいとは限らない。



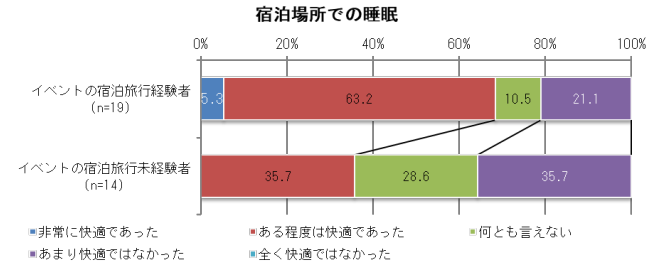


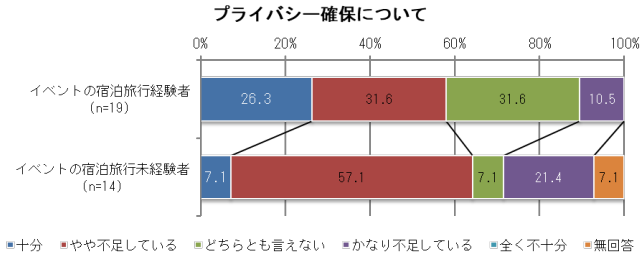
（イ）イベント参加経験や雑魚寝経験別特性の違い

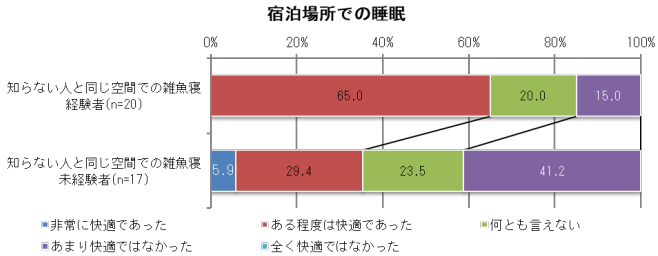
～イベントでの宿泊経験者や雑魚寝経験者は、一時的宿泊所の環境需要度が大きい～

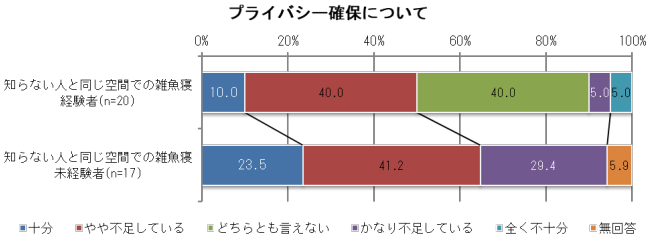
イベントでの宿泊旅行経験別でみると、経験者の方が快適性についてもプライバシー確保についても満足度は高い。さらに、雑魚寝経験別でみると、経験者の方が快適性についての満足度は高いが、プライバシー確保については、未経験者では「十分」と答えた者と「かなり不足している」と答えた回答者に二極化しており、いずれの回答も経験者より多い。

このことから、一時的な宿泊施設に対する受容度は性別には関係なく、イベントでの宿泊旅行経験や雑魚寝経験に左右されるが、プライバシー確保についての意識はこれらの経験や性別には関係なく、まったく別の個人的な性格によるものとみることができる。









参加者へのヒアリングでは、「キャンプや山小屋に泊まるという感覚であれば、まったく OK である」「自分の寝袋などを自分たちで準備したり、後片付けしたりするのも全く問題はない」と回答した者もいた。

宿泊は「目的」にも「手段」にもなりうるが、宿泊そのものを楽しむということではなく、スポーツイベントやコンサートなどに行くための「手段」となった場合には、宿泊環境に対する受容度は増すものと考えられる。

今回モニターが利用したフェリーや公共施設を一時的な宿泊施設として利用する際には、「目的」が重要となる。スポーツイベントへの参加等を目的として来島し、一時的な宿泊施設として使用する場合には、今回モニターから提示された課題についても、解消されやすくなると考えられる。

3）イベント民泊としての利用の可能性

奥尻島においては、慢性的に宿泊施設が不足していることから、イベント等の実施にあたっては、イベント民泊の実施により、宿泊場所を補う方法が考えられる。公共性の高いイベント開催等において町民が自宅を提供する場合には、旅館業法の適用外となる。

> イベント民泊とは・・・・
> [1]イベント開催時であって、
> [2]宿泊施設の不足が見込まれることにより、
> [3]開催地の自治体の要請等により自宅を提供するような公共性の高いものについて、「旅館業」に該当しないものとして取り扱い、自宅提供者において、旅館業法に基づく営業許可なく、宿泊サービスを提供することを可能とするもの。
>
> （観光庁ホームページより抜粋）

多数の旅行者が見込まれるイベントの開催時に、公共施設を宿泊施設として活用するには、宿泊施設の供給量（客室数）、来場者数の見込値、過去実績等から、宿泊施設が不足するかどうかを踏まえて、旅館業法担当部署、警察署、消防署等の関係部署に相談のうえ、イベントホームステイ（イベント民泊）の活用について自治体として意思決定が必要となる。

(5)意見交換会の開催

1） 意見交換会開催概要

実施日	令和６年２月２日(金) 14:30～15:30		
実施会場	奥尻町海洋研修センター 会議室		
出席者	ハートランドフェリー(株)	取締役業務本部長	浦田 耕造 (ﾘﾓｰﾄ参加)
	奥尻町産業振興課	課長	横田 稔
	奥尻町産業振興課	係長	池田 勇一
	奥尻島観光協会	代表理事	松川 武彦
	奥尻商工会	会長	明上 雅孝
	叶寿司	オーナー	井田 善直
	Gift Poket	オーナー	髙橋 幸子
	離島仙人	オーナー	枝松 寛次
	奥尻レンタカー	オーナー	逸見 美知代
実施主体	北海道運輸局海事振興部	次長	矢島 修
	北海道運輸局函館運輸支局支局長		村上 浩之
委託事業者	株式会社 TAISHI	代表取締役	菅野 剛
	株式会社 TAISHI	ディレクター	嶋田 健一
	リ・マスター合同会社	CEO	篠﨑 宏
	リ・マスター合同会社	シニアパートナー	金沢 英明

2） 次第

1. 開　会(司会)
2. 主催者挨拶　北海道運輸局
3. 中間報告(骨子)　株式会社 TAISHI
4. モニター調査についての所感
   ・ハートランドフェリー株式会社
   ・奥尻町
5. 意見交換
6. 最終報告会について

3） 意見交換会にみる事業の方向性

（※当日欠席者に対しては、追加ヒアリング調査を実施）

～組織を超えた協力体制により、宿泊施設の不足課題の解消に向けた取組が必要～

民宿等が減少していく現状にあって、一時的宿泊施設に対する期待は高く、宿泊に繋がる催事の増加を期待する声も聞かれた。

一時的な宿泊に使用する施設に関しては、今回使用した 3 施設以外にも、町民センターや集会場等の公共施設の利用や、空き家の活用と民泊の推進が必要との意見もある。公共施設については補修や安全設備の整備が必要となる面もあるが、宿泊施設の増加をすぐには期待しにくい現状の中にあって、工夫や協力によって少しずつでも受け入れ体制として一時的な宿泊場所を確保していく必要があるとの意見が大勢を占めた。

運営体制については、具体的な組織体制や中心となるべき組織といった視点での意見は見られなかったが、個別の組織を超えた話し合いや協力体制、あるいは新たな組織の構築など、これまでの経緯や常識を超えた運営体制の考え方が必要という意見が挙げられている。

（ア） 実証調査参加事業者からみた一時的宿泊所への期待

ハートランドフェリー（株）	実際に泊まれる人数は18名より多いが、初めてのことで準備不足だった。
奥尻町産業振興課	今回の2施設は、毎年消防の検査を受けているため、試験事業に利用可能であったが、基準が厳しくなってきており、他の公共施設では設備等の改修が必要となる。
奥尻島観光協会	施設を建てるのであれば、冬場の閑散期が問題となる。その点一時的な宿泊施設は期待できるものである。
奥尻商工会	島に来てもらうことが必要だと皆考えている。否定的な意見もあるかもしれないが、一歩でも前進して島外から人に来てもらうことを考える必要がある。
辻商店	一時的に宿泊場所を確保するという取り組みは、島にとって大事だと思う。
叶寿司	観光客を受け入れる体制を作ることで、土産店やレンタカー会社など観光事業者が潤う。そのためには弁当の提供も受けるべきだと考えている。
まつや	宿泊につながる催事は増えた方がありがたい。
奥尻レンタカー	GWや夏場は観光客が多くなるが、宿泊施設が足りない。今回のようにグループで来島する企画が毎年あるとありがたい。特に9月以降に期待。
奥尻かもめﾄﾗﾍﾞﾙﾚﾝﾀｶｰ	モニターの方々も満足していた。島の評判が広がっていくことに期待が持てる。このような実証実験は何度でもやってほしい。
Gift　Poket	現在団体客を受け入れられない状況である。二つの工事が重なり、宿は満杯である。今回実験できたのは良かった。
離島仙人	希望としては1泊2日ではなく2泊3日のイベントを期待する。
奥尻ワイナリー	宿で温泉に入ってゆっくりすることを楽しむ層ではなく、地域と関わって土地柄に興味を持ってくる方などが増えている。その点で一時的宿泊施設は魅力的だと考える。まずは、島の受入キャパを増やすべきである。

（イ） 奥尻島にとっての一時的宿泊所の必要性と課題

ハートランドフェリー（株）	トイレや洗面台の数が少ないため不便だったのではないか。
奥尻町産業振興課	どうすれば実現可能かという点は整理されたと考える。
奥尻島観光協会	夏の時期は運航時間の関係上フェリーでの宿泊も難しいと考えられる。キャンプ場を整備して使うことも検討してはどうか。
奥尻商工会	島の消費には限界がある。宿泊、飲食、交通など課題は連動している。
辻商店	段ボールは設備として不十分であり、テントがあれば良い。
叶寿司	イベントで満足しても、宿泊場所の環境を整えないと満足度は上がらない。
まつや	宿泊施設を増やせないのであれば、空き家を活用できないか。
奥尻レンタカー	GWや夏場は観光客が多くなるが、宿泊施設が足りない。
奥尻かもめﾄﾗﾍﾞﾙﾚﾝﾀｶｰ	民宿は高齢化が進み廃業する人も増えている。ホテルはすぐには増やせない。民宿・ホテル以外の宿泊場所を考えることは重要だ。
Gift　Poket	宿泊場所が確保できると良い。民泊も推進してほしい。
離島仙人	交通アクセスがネック。キャンプ場も立派なものがあるが、交通便が良くない。
奥尻ワイナリー	フェリーでの宿泊に関しては管理・運営の費用を考慮した上で、宿泊施設として有効なのかを考える必要がある。場合によってはスーパーハウスのようなものを建てて貸した方が合理的かもしれない。継続できる方法を考えていくべき。

（ウ） 一時的宿泊所の運営体制と方向性

ハートランドフェリー（株）	―
奥尻町産業振興課	公共施設は改修すれば利用可能だが、住民参加によるイベント民泊が現実的。宿泊場所の条件を明示して納得した人を受け入れると可能なのではないか。
奥尻島観光協会	1回で終わるのではなく、イベントの度に改善しつつ行っていき、少しずつ受け入れられるものにしていくべきだ。
奥尻商工会	皆でできることを話し合える場が必要だ。できることを話し合っていくべきだ。すべての客に満足はしてもらえないが、工夫しながら発信していくべきだ。
辻商店	島内にある空き家を活用すべき。民泊の提供希望者はいる。
叶寿司	毛布や寝袋程度で宿泊可能な施設がもっと必要だ。島の経済のために知恵を出し合うべきだ。空き家についてももっと発信していくべきだ。
まつや	なんとか工夫して宿泊場所を確保した方が良い。
奥尻レンタカー	町民センターや空き家をリノベーションして使うことも考えられる。
奥尻かもめﾄﾗﾍﾞﾙﾚﾝﾀｶｰ	自治センターは現在葬儀では使用していないので、イベントの時の宿泊施設として使用可能ではないか。運営については町が予算化する必要がある。
Gift　Poket	町民センターなど他の施設も利用できると良い。
離島仙人	―
奥尻ワイナリー	できる方法を模索すべきである。イベントと一時的な宿泊施設を運用するには、垣根を超えた組織や新たな推進組織を作り上げる必要がある。

（6）第6期奥尻町発展計画「交流のあるまちづくり」への裨益の検証

～一時的宿泊所の活用可能性を探る本取組は、「交流あるまちづくり」に裨益するものである～

1） 第 6 期奥尻町発展計画について

令和 3 年 6 月に策定された「第 6 期奥尻町発展計画」（以下発展計画）では、中長期的なまちづくりの基本的な方向性を定め、町政運営の指針として、7 つの政策と 23 の施策を掲げている。

（ア） 交流人口の増加目標と一時的宿泊施設運用の意義

発展計画では、交流のあるまちづくり（交流・観光）の政策の中で、観光入込客数と体験型観光メニューの体験者数について令和 12 年度の目標値を掲げている。これによると観光入込客数の目標は 7,000 人（25%）増であり、体験型観光メニューの体験者数の目標は 1,700 人（2.1 倍）増となっている。

宿泊者数に関しては、現在の大規模工事終了後も一定程度の工事関係者の宿泊需要が見込まれることから、宿泊施設の不足感は続きそうである。現状の島内の民宿のキャパシティは 409 人となっているが、客室数は 178 室であり一人 1 室の希望が多いビジネス客によって、宿泊キャパシティは依然不足することが予測される。

この点で、民宿以外の一時的な宿泊場所の活用は、発展計画に掲げる観光入込客数の目標達成の実現に寄与するものといえる。

また、体験メニューの参加者数に関しては、今回31名のモニターのうち 21 名の体験プログラム参加希望者があった。仮に 500 人が参加するイベントを実施したとすると、約 340 人の体験プログラム参加者が生まれる計算になる。

○政策 2「交流のあるまちづくり」の目標指標

指標	基準値（R1）	目標値（R12）	増加数	増加率
観光入込客数	2.8 万人	3.5 万人	0.7 万人	+25%
体験型観光メニューの体験者数	延べ 800 人	延べ 2,500 人	1,700 人	+212.5%

（イ）交流のあるまちづくり」の個別施策と一時的宿泊施設運用の意義

発展計画では、上記目標を実現するための個別施策として、以下の5つの施策を掲げている。いずれも、観光入込客数を増やし、また体験型観光メニューの体験者数を増やす上で必要となる施策である。

①観光地としての魅力づくりの推進
②観光客の受入れ体制整備
③観光に関わる人材育成と組織化の推進
④戦略的な観光振興の推進
⑤関連基盤施設の整備推進

今回の実証調査事業において、フェリー等を含む一時的な宿泊施設について、関係者からは継続的な実施と実現を望む声が聞かれたが、今後町内の公共施設や民泊を含めた多様な受け入れ体制の整備なくしては、宿泊客の増加は望めず、結果として観光入込客数の増加も期待しにくいものと考えられる。

発展計画の個別施策に掲げる「観光客の受入れ体制整備」「観光に関わる人材育成と組織化の推進」「関連基盤施設の整備推進」を行う上で、これまでのように固定的な宿泊施設の誘致や町内の宿泊施設の事業継承を図るだけでなく、柔軟な宿泊客受入体制構築を志向することも、発展計画の目標値達成の上で有益であるととらえることができる。

（ウ）「快適にくらせるまちづくり」の目標数値と一時的宿泊施設運用の意義

発展計画の中で快適にくらせるまちづくりの目標として、8 つの指標が掲げられている。そのうち以下の二つの指標が観光に関連する。

フェリーの利用者数については 5,000 人の増加目標で、航空機利用率は 23.4%の増加目標となっている。フェリーや航空機の利用は観光客以外にビジネス客や島民の利用も多いが、先の観光入込客数 7,000 人の増加目標を達成することで、フェリー利用者数 5,000 人増加も実現可能性が高まる。

この目標を達成する上でも、宿泊施設の増加は不可欠の要素となってくる。

〇政策 5：快適にくらせるまちづくり」の目標指標

指標	基準値（R1）	目標値（R12）	増加数	増加率
フェリー利用者数	5.5 万人	6.0 万人	0.5 万人	+9.1%
航空機利用率	46.6%	70.0%	+23.4%	+50.2%

(7)最終報告会

1） 最終報告会開催概要

実施日	令和６年３月４日(月) 13:30～15:00		
実施会場	奥尻町海洋研修センター 大ホール		
出席者	ハートランドフェリー(株)	取締役業務本部長	浦田 耕造
	檜山振興局商工労働観光課	観光振興係長	牧野 友美
	奥尻町産業振興課	係長	池田 勇一
	奥尻島観光協会	代表理事	松川 武彦
	奥尻島観光協会	副理事長	外崎 雄斗
	奥尻商工会	会長	明上 雅孝
	ハートランドフェリー(株)	支店長代理	佐野 由裕
	叶寿司		井田 憲吾
	Gift Poket	代表	髙橋 幸子
	島じかん	代表	森田 吉紀
	奥尻観光ガイドサービス	代表	井口 和広
実施主体	北海道運輸局海事振興部	次長	矢島 修
	北海道運輸局函館運輸支局	支局長	村上 浩之
	北海道運輸局函館運輸支局	主席運輸企画専門官	植田 雅巳
委託事業者	株式会社 TAISHI	代表取締役	菅野 剛
	株式会社 TAISHI	ディレクター	嶋田 健一
	リ・マスター合同会社	CEO	篠﨑 宏
	リ・マスター合同会社	シニアパートナー	金沢 英明

2） 次第

1. 開　会
2. 主催者挨拶北海道運輸局海事振興部次長 矢島 修
3. 最終報告株式会社 TAISHI
4. 質疑
5. 閉会

3） 最終報告会参加者の意見

～一時的宿泊施設を活用した来訪者と住民との交流が、奥尻島の課題解決に結びつく～

「フェリー等を一時的な宿泊施設として活用するための実証調査」について、最終報告会参加者全員が「評価できる」と回答した（「大いに評価できる」37.5%、「ある程度評価できる」62.5%）。宿泊施設の減少と、人口減少からくる島の産業の担い手不足という二つの課題を解決するための、一時的宿泊施設の運用による来訪者の維持拡大の必要性について、参加者全員が共通認識を持ったといえる。

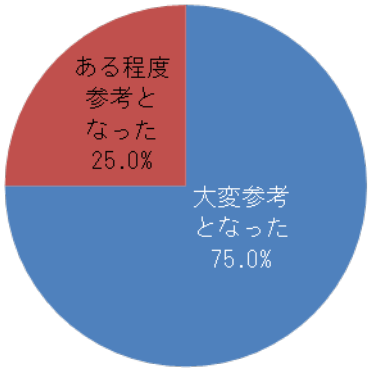
また、奥尻島のファンづくりについては、参加者がそれぞれの立場で実践しているとろでもあり、島外の人材活用については容易にイメージできる参加者が多い。今後は、一時的宿泊施設の実践的な展開をしつつ、新しい体制づくりが求められる。

一時的宿泊施設の今後について

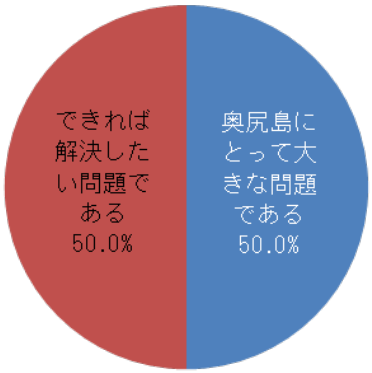
ハートランドフェリー（株）	何を目的にして泊まるかということがポイントになりそうに思う。本来の宿泊施設で吸収できるのが一番良いのは明らかだが、宿泊施設が不足している状況の中で、フリーWi-Fiや発電機などを用意して、公共施設などを一時的な宿泊所として提供することは必要と考える。
奥尻島観光協会	町の持ち物を活用するのは非常に良いことだが、現実的に活用できるのかということが問題だ。それができればホテル誘致も不要になるかもしれない。移住者で宿泊施設をやりたいという人もいるので、そういう人たちで島の宿泊施設を維持することも大事だ。できるだけ多くの人に奥尻島に来てもらい、そういう人の中から移住者が増えることを期待したい。新しい在り方を考えることは必要だ。
奥尻商工会	自分にできることは何か。諦める前にやってみようという考えで進んでいくべき。クラウドファンディングを実際にやってみて、奥尻島を応援してくれる人が多いことがわかった。島の情報を発信し続けることが大事だ。
imacoco	南西沖地震を知らない若い世代は奥尻島に興味を持たない。そこで学生を奥尻島に来てもらいたいと考えた。人手不足の離島農家と都市部の学生のマッチングをしている団体と連携し、imacocoに10日間滞在してボランティアをする学生を、2019年以降120名ほど呼んでいる。毎回10人受け入れるが、そのうち2～3人は少なくても年に1回、多い子は3回島に来て「帰省しました」といって知り合いの農家などを訪ねている。 島外の若者と奥尻島住民の交流は大きな意味がある。
Gift　Poket	体験に参加する学生や家族で来られる方も多い。漁師の家なので漁の手伝いをしてくれる学生も来る。

4）最終報告会参加者アンケート

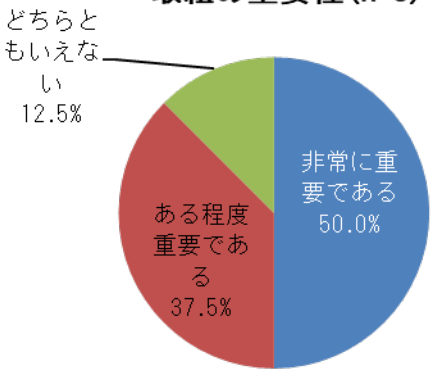
報告会の感想（n=8）



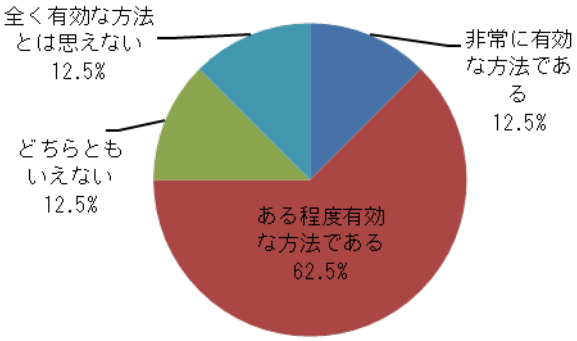
泊まれない観光客がいる状況について（n=8）



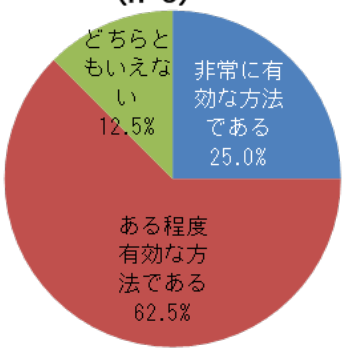
「一時的な宿泊施設」活用する取組の重要性（n=8）



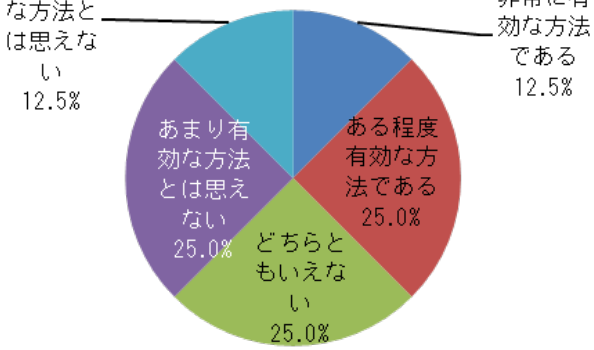
一時的な宿泊施設としてフェリー活用の有効性（n=8）



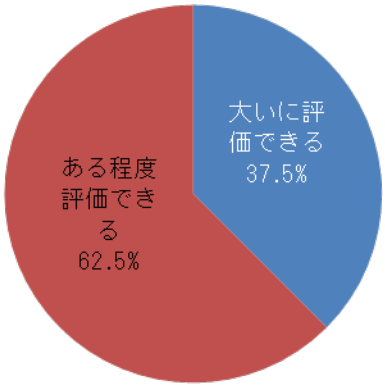
一時的な宿泊施設として神威脇温泉保養所活用の有効性（n=8）



一時的な宿泊施設として奥尻町あわび種苗育成センター活用の有効性（n=8）



今回の実証調査の評価（n=8）



問 8. 奥尻町の宿泊キャパシティを増やすための取組みや方法について、アイディアやお感じになっている点をご記入ください。

・公共施設を宿泊施設として利用する段取り（仕組みづくり）を進めていきたい。新たに箱をつくるより、あるものを活かす方向性に大いに賛成。
・①キャンプ中の荒天時に避難宿泊施設として神威脇温泉保養所を活用できないか。②空き家の利用。
・民泊も取り入れてはどうか。空き家をリフォームして短期・長期滞在の受け皿としてはどうか。
・宿泊のキャパを増やすことは、一時的な施設も必要なこともあるが、やはり来島する全員が満足するホテル等の施設が必要と思う。
・観光客の対応は厳しい感じがします。イベント開催での取組で進めた方が良い。

問 9.その他、奥尻町の観光振興についてのご意見がありましたら、ご記入ください。

・宿が足りていないのであれば、キャンプ。キャンプ場のトイレ・水場の整備が必要である。
・島内のシルバー人材を活かして観光地の価値を高めていきたい。
・海洋ごみについて町民ももっと力を入れてほしい。

3. 調査結果のまとめ

(1)モニターからの評価

フェリーでの宿泊については、80%近くのモニターが「快適であった」と答えており、今回使用した 3 施設の中では最も快適性が高いと評価されている。気になる点として挙げられたのは、部屋の温度(暑すぎ)や枕(備え付けの枕の高さ、硬さ)で、この点は改善の余地を残している。

神威脇温泉保養所での宿泊については、55%近くのモニターが「快適であった」と答えているが、「あまり快適ではなかったとの回答も 46%近くある。気になる点としては、70%以上の参加者が「周りの人の音や気配」と答えている。「他の家族やグループとの距離」を挙げたモニターも 40%ほどみられる。本来宿泊場所でないためやむを得ない面はあるが、非常灯の明るさなども改善の余地がある。

3 施設のいずれもイベントなどの際には「きっと利用する」「利用するかもしれない」といった回答が大半を占めており、また、ヒアリングの中では、「キャンプや山小屋に泊まるという感覚であればまったく問題ない」「自分の寝袋を持ち込むのも OK である」といった声も聞かれた。通常の観光と異なるシチュエーションでは、利用ニーズが高まることが想定できる。

(2)関係者からの評価

地域の関係者からは、民宿等が減少していく中で、一時的宿泊施設による地域の課題解決に繋がる可能性に対する期待感は大きい。特に、体験コンテンツ提供事業者やレンタカー事業者からは、今回の 3 施設以外にも町民センターや集会場の活用、あるいは民泊の推進によって、長年続いている宿泊施設の不足状況を改善することへの意が多くだされた。

施設の提供者は、本来宿泊施設ではない場所を提供することへの危惧や、施設の狭さからくる満足度の低下を心配する声も聞かれたが、様々な工夫や運営側の協力体制によってこれらの諸問題を解決し、町内事業者の売上や、島の経済活性化に繋がる効果を期待する声が大きい。

(3)今後の方向性

モニターから提示されたプライバシー確保や明るさといった施設利用上の課題については、ドームテントを使用することにより、多くの課題は解決されるものと考えられる。寝袋などの宿泊用に使用される備品は、島内にある数量で賄うことは困難であるため、利用者が持ち込むことが必要となってくる。

ヒアリングなどの結果では、室内キャンプ、あるいは山小屋に泊まるという感覚では全く問題を感じさせない環境であることから、通常の民宿とは異なる新しい宿泊スタイルを提案することが重要である。フェリーや海辺の温泉施設などを利用した疑似キャンプのような宿泊のあり方を、「奥尻スタイル」の宿泊として掲げ、新しいカテゴリを確立する取組が必要となってくる。事前に知らせることで、利用者の理解を得るのは容易であると判断される。

高齢化が進み、観光関連産業の担い手も少なくなってきている奥尻島において、このような新しいあり方を確立することができれば、宿泊以外の面でも活用可能なノウハウを見出すことに繋がっていく。

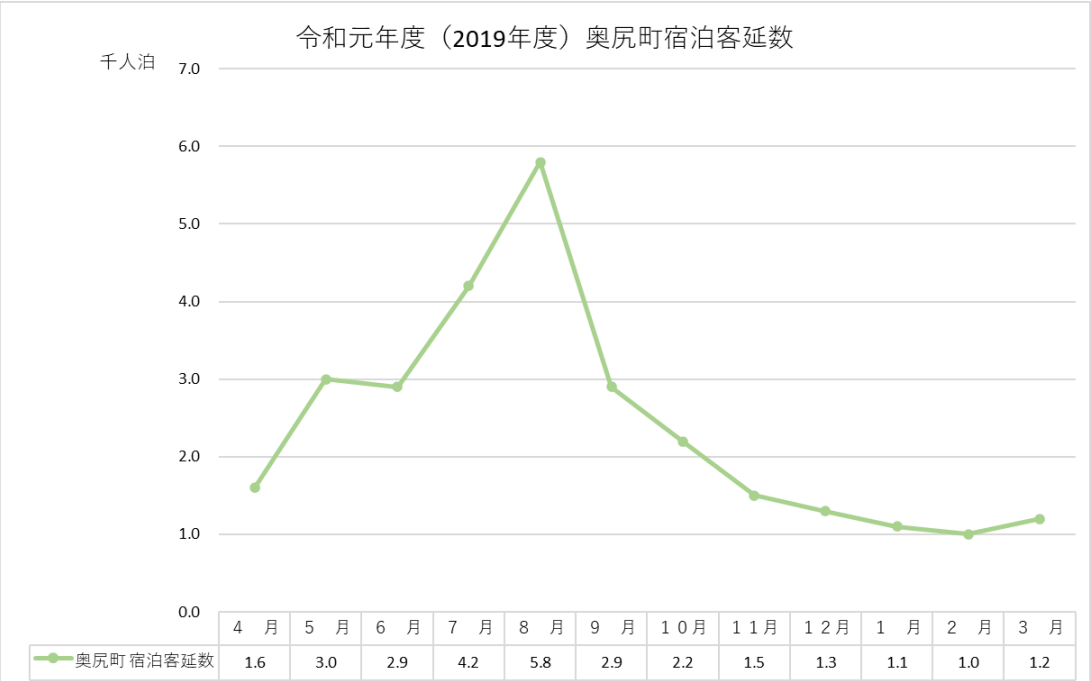
（4）今後の継続実施に向けた課題

一時的宿泊施設内部の課題が、参加者の協力により解決されるとしても、宿泊場所の選定と運営体制に係る課題が残る。

奥尻町内の公共施設は老朽化が進み、町民センターや集会場など、一時的宿泊施設の候補があるものの、消防法との兼ね合いから現状のままでは継続的な利用は望めない。民間の宿泊施設の投資への期待もあるが、観光需要の閑散期が長い奥尻島においては現在ある民宿等と同程度の規模のものになるものと想定され、大規模の宿泊施設の投資は期待しにくい。したがって、一時的な観光需要に対応するためには、フェリーの活用に加え、研修センターや集会所など町内の施設の活用の検討も求められる。

フェリーの場合、観光需要期である7月と8月は入港時刻が 19:50 と遅くなるため、この時期にフェリーでの宿泊を行うことは困難である。フェリーに関しては、比較的温暖な 5 月、6 月あるいは 9 月といったピークシーズンに次いで観光需要が見込まれる時期の週末に限定して、一時的な宿泊施設としての活用を施行も含め検討してはどうかと思われる。

また、運営体制については、役場、観光協会、商工会などの組織団体においては、いずれもマンパワー不足であり、単一組織での運営体制構築は困難と思われる。これまでに行った祭りやイベントの実施体制とは異なる、新しい考え方を取り入れた運営体制の仕組みづくりが必要となってくる。



出典：北海道観光入込客数調査報告書　令和元年度（2019 年度）よりグラフ作成

（5）一時的宿泊施設の運営手法の磨き上げ

宿泊施設不足の続く奥尻島の課題解決のためには、今後も一時的宿泊施設の利用を重ね、その中でさらに細かな課題を洗い出し、一時的宿泊施設の運営手法を磨き上げていくことが望まれる。

運営体制は、役場や観光協会といった単一の組織が固定的に担うべきものではなく、一時的宿泊施設の利用を繰り返す中で、町内の幅広い関係者が連携し、協力しながら新しい運営体制を模索すべきと考える。また、奥尻島の現状を考えるとき、一時的宿泊施設の利用にあたっては、寝袋やテントなどの備品を島外から持ち込むだけでなく、一時的宿泊施設の運営スタッフも島外から調達するという考え方も必要となってくる。奥尻島内の関係者の負担を軽減するという点では、IT の活用による予約受付業務等の省力化を図ることも有効と考えられる。

奥尻島に限らず多くの地域では、高齢化や担い手不足により地域の祭りやイベントも縮小傾向にある。これらの問題は、地域の関係者だけでは容易に解消できない大きな課題となっている。この課題の解決のためには、地域外のパワーを活用した運営体制の活性化を検討すべきである。

例えば、奥尻ムーンライトマラソンのような過去に行ったイベント参加者は、地域に対する協力や応援の意向を強く持っている。

運営にあたっては、一時的宿泊所の持続可能性を高めるため、利用者には何らかの形での費用負担を求めることはもちろんであるが、運営を支援する人材に対しては有料ボランティアとして活躍してもらうようにすることが望ましい。また、島外人材を活用する場合においても、全体のまとめ役は、島内の人材あるいは組織が必要となる。宿泊施設の減少と担い手不足という二つの大きな課題を解決していくためには、新しい運営体制の検討と構築を行う必要がある。

（6）一時的宿泊施設の活用を通じて交流のあるまちづくりの実現を！

今回の実証調査参加者 31 名のうち、21 名が 2 か所に分かれて体験プログラムに参加した。提供された体験コンテンツそのものの満足度も高いが、参加者の感想の中には、「体験プログラムで地元の方とコミュニケーションが取れたのが良かった」との声も聞かれた。宿泊施設に泊まること自体を目的としない今回の実証調査のような場合では、特に地元の住民との交流機会を望む参加者が多くなるものと考えられる。

一時的な宿泊施設の範囲を島内の各地域に広げ、そこで来島者と町民とが交流する機会が生れれば、奥尻島ファンや奥尻の祭り・イベントの応援団がさらに増えることに結びつく。そのためには、諸問題をひとつずつ解決しながら、フェリーの活用とともに、町民の理解を得て集会所などの一時的な宿泊所としての活用を目指すべきである。

祭りやイベントの機会での一時的宿泊施設の利用機会を増やし、来島者と地域住民の交流機会を増やすことは、奥尻島へのリピーターの増加だけでなく、将来の祭りやイベントへの参加者、さらにはイベントや一時的宿泊施設の運営スタッフの確保にもつながっていき、交流のあるまちづくりを実現することに結びつく。

そのような交流機会を拡大する上で、奥尻島において一時的な宿泊施設の果たす役割は非常に大きいものといえる